



# 2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月1日

上場会社名 オルガノ株式会社

上場取引所 東

コード番号 6368 URL <https://www.organo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田 正幸

問合せ先責任者 (役職名) 経営統括本部 経理部長 (氏名) 園部 茂

TEL 03-5635-5111

四半期報告書提出予定日 2023年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	95,127	22.2	9,940	61.8	10,986	65.1	7,552	42.6
2022年3月期第3四半期	77,834	13.2	6,141	16.7	6,654	22.7	5,297	47.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 8,864百万円 (50.3%) 2022年3月期第3四半期 5,896百万円 (62.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	164.71	
2022年3月期第3四半期	115.36	

当社は、2022年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	150,685	82,644	54.7
2022年3月期	130,506	76,004	58.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 82,429百万円 2022年3月期 75,836百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		72.00		88.00	160.00
2023年3月期		116.00			
2023年3月期(予想)				29.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2022年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。2023年3月期(予想)の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しております。株式分割を考慮しない場合の2023年3月期(予想)の1株当たり期末配当金は116円となり、1株当たり年間配当金は232円となります。

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	140,000	24.9	14,500	33.6	15,200	31.6	11,500	24.9	250.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期の通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式分割の影響を考慮しております。なお、株式分割を考慮しない場合の1株当たり当期純利益は1,003円14銭となります。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注)詳細は、添付資料8ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	46,359,700 株	2022年3月期	46,359,700 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	470,787 株	2022年3月期	541,020 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	45,856,201 株	2022年3月期3Q	45,922,196 株

(注)

1. 当社は、2022年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。
2. 当社は、役員向け株式交付信託を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数及び期中平均株式数(四半期累計)の算定上控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当連結会計年度の第3四半期(2022年4月1日～12月31日)は、当社グループの主力市場である電子産業分野において、スマートフォンやパソコンなどの需要減少によってメモリを中心に半導体市況が悪化したことに加え、米国による対中半導体規制をめぐる影響などによって一部の顧客で減産や設備投資を縮小・延期する動きが見られた一方、台湾などにおける先端半導体向けの大型投資や、国内外でシリコンウェハや車載・パワー半導体などの設備投資には引き続き活発な動きが見られました。また、一般産業分野におきましては、コロナ禍でここ数年低調に推移していた設備投資が回復しつつあり、電力・上下水など社会インフラ分野は引き続き堅調な推移が見られております。

このような状況の下、当社グループは国内外において大型の半導体プロジェクトの受注・納入活動を進めるとともに、各国におけるサプライチェーンや納入体制の整備、エンジニアリング業務やソリューションサービスなどのデジタル化推進、次世代の超純水システムや新たな分離精製技術などの研究開発体制の拡充、リスク管理体制の整備などがバランスの強化に向けた取組みを進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、受注高124,810百万円(前年同期比24.6%増)、売上高95,127百万円(同22.2%増)、営業利益9,940百万円(同61.8%増)、経常利益10,986百万円(同65.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益7,552百万円(同42.6%増)となり、繰越受注残高は120,840百万円(同43.4%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[水処理エンジニアリング事業]

#### ■受注高

受注高は前年同期比28.1%増となる109,208百万円となりました。主力の電子産業分野において、国内や台湾で大型プロジェクトの受注に成功したことに加え、中国やマレーシアにおいても車載・パワー半導体などのレガシー半導体を中心に大型の投資が活発に推移したことなどから受注高が大きく伸長しております。また一般産業分野においても製薬や食品、電子産業の周辺分野などで大型投資の回復が見られ受注が増加いたしました。電力・上下水など社会インフラ分野においては、国内のソリューション案件などを中心に、ほぼ前年同期並の水準で推移しております。

#### ■売上高

売上高は前年同期比25.8%増となる79,787百万円となりました。主力の電子産業分野において、受注した大型案件の工事が順調に推移したことに加え、円安の影響で海外売上高が増加したことや、メンテナンスや改造工事、設備保有・加工受託などのソリューション事業も好調に推移していることなどから売上高が増加いたしました。一方、一般産業分野においては、当期に受注した大型案件の工事進捗が本格化していないことや、材料の供給遅れによって中小型規模の装置の売上計上が第4四半期にずれ込んだことなどから、売上高は前年同期比で減少しております。また、電力・上下水など社会インフラ分野は国内のソリューション案件などを中心に堅調な推移が見られております。

#### ■営業利益

営業利益は前年同期比67.1%増となる8,290百万円となりました。電子産業分野の売上拡大による増収効果によって売上総利益が大きく増加し、人件費などを中心とした経費の伸長を上回ったことから、営業利益は前年同期比で増加しております。

## 〔機能商品事業〕

## ■受注高・売上高

受注高は前年同期比5.1%増となる15,601百万円、売上高は同6.4%増となる15,340百万円となりました。水処理薬品分野では電子産業分野に向けた各種処理剤の販売が拡大しており、標準型機器・フィルタ分野では前年発売のピューリックμ（ミュー）など小型純水装置の販売が好調に推移いたしました。また、食品分野では各種の食品添加剤などの売上が増加するなど各分野とも好調な推移が見られております。

## ■営業利益

営業利益は前年同期比39.9%増となる1,649百万円となりました。水処理薬品、標準型機器・フィルタ、食品の各分野で売上が拡大したことに加え、原材料価格などのコスト増加に対して各分野で値上げによる価格転嫁が進んだことなどから、前年同期比で営業利益が増加いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

## 資産・負債及び純資産の状況

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ20,179百万円増加し、150,685百万円となりました。これは主に、現金及び預金10,079百万円の減少に対し、受取手形、売掛金及び契約資産14,686百万円の増加及び仕掛品12,116百万円の増加によるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ13,539百万円増加し、68,041百万円となりました。これは主に、短期借入金12,624百万円の増加によるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ6,639百万円増加し、82,644百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴う利益剰余金5,205百万円の増加によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年10月24日に公表した連結業績予想を変更しておりません。足元では国内外の大型投資プロジェクトの受注動向や工事の進捗状況など、個別の案件では変動がありつつも全体としては順調に推移しております。通期の業績としては、いずれも期初の計画を上回り、前期に引き続いて過去最高を更新する受注高170,000百万円（前年同期比25.3%増）、売上高140,000百万円（同24.9%増）、営業利益14,500百万円（同33.6%増）、経常利益15,200百万円（同31.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益11,500百万円（同24.9%増）を見込んでおります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,198	10,118
受取手形、売掛金及び契約資産	52,926	67,612
電子記録債権	1,862	2,578
リース投資資産	11,293	10,475
商品及び製品	5,264	6,197
仕掛品	6,735	18,851
原材料及び貯蔵品	1,456	1,861
その他	3,133	5,398
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	102,862	123,086
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,873	19,235
減価償却累計額	△12,707	△13,085
建物及び構築物（純額）	6,166	6,149
機械装置及び運搬具	5,826	6,621
減価償却累計額	△5,117	△5,374
機械装置及び運搬具（純額）	709	1,246
土地	12,257	12,273
建設仮勘定	1,115	85
その他	5,346	5,795
減価償却累計額	△4,601	△4,741
その他（純額）	745	1,054
有形固定資産合計	20,995	20,810
無形固定資産	1,082	950
投資その他の資産		
投資有価証券	2,058	2,337
退職給付に係る資産	624	773
繰延税金資産	2,369	2,281
その他	979	585
貸倒引当金	△464	△138
投資その他の資産合計	5,566	5,839
固定資産合計	27,644	27,599
資産合計	130,506	150,685

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,795	16,676
電子記録債務	5,575	8,721
短期借入金	9,933	22,557
未払法人税等	1,444	1,655
契約負債	1,820	2,760
賞与引当金	1,477	850
製品保証引当金	296	492
工事損失引当金	46	39
役員株式給付引当金	123	78
その他	3,559	4,255
流動負債合計	43,072	58,087
固定負債		
長期借入金	5,695	3,945
繰延税金負債	53	154
退職給付に係る負債	5,512	5,659
その他	168	195
固定負債合計	11,429	9,954
負債合計	54,501	68,041
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,508
利益剰余金	59,619	64,824
自己株式	△734	△613
株主資本合計	74,617	79,945
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	434	491
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	575	1,764
退職給付に係る調整累計額	208	228
その他の包括利益累計額合計	1,218	2,484
非支配株主持分	168	214
純資産合計	76,004	82,644
負債純資産合計	130,506	150,685

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	77,834	95,127
売上原価	58,732	70,622
売上総利益	19,102	24,505
販売費及び一般管理費	12,960	14,565
営業利益	6,141	9,940
営業外収益		
受取利息	22	21
受取配当金	31	41
為替差益	455	828
持分法による投資利益	92	156
その他	73	113
営業外収益合計	674	1,161
営業外費用		
支払利息	88	108
デリバティブ評価損	66	-
その他	7	6
営業外費用合計	162	115
経常利益	6,654	10,986
特別利益		
固定資産売却益	1,150	5
投資有価証券売却益	23	2
施設利用権売却益	11	-
特別利益合計	1,185	7
特別損失		
固定資産廃棄損	13	21
投資有価証券売却損	-	1
施設利用権売却損	13	-
特別損失合計	27	23
税金等調整前四半期純利益	7,813	10,970
法人税等	2,511	3,401
四半期純利益	5,301	7,569
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	16
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,297	7,552

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	5,301	7,569
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	56
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	506	1,218
退職給付に係る調整額	49	20
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	0
その他の包括利益合計	595	1,295
四半期包括利益	5,896	8,864
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,883	8,818
非支配株主に係る四半期包括利益	13	46

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社は、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果になる場合には、税金等調整前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減したうえで、法定実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の影響について)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	水処理エンジ ニアリング 事業	機能商品 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	63,424	14,410	77,834	—	77,834
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	242	243	△243	—
計	63,424	14,653	78,078	△243	77,834
セグメント利益	4,962	1,179	6,141	—	6,141

(注) セグメント利益は、営業利益ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業利益との間に差異はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	水処理エンジ ニアリング 事業	機能商品 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	79,787	15,340	95,127	—	95,127
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	255	255	△255	—
計	79,788	15,595	95,383	△255	95,127
セグメント利益	8,290	1,649	9,940	—	9,940

(注) セグメント利益は、営業利益ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業利益との間に差異はありません。